

生徒の感想文

僕は震災の地へ行って「自然の恐ろしさ」を痛感し「僕たちがしなければいけないこと」を学びました。12m以上の津波が押し寄せ、町を瞬にして飲み込みました。人々がどれだけ尽力しても自然の前では無力なんだな、と痛感させられました。そして、その地震はたくさんの尊い命を奪いました。その命は「生きたくても生きられなかった」命だと伝えられました。そこで、今、生きられている私達は生きているありがたみを噛みしめて生きていくことが必要だと学びました。

近年、日本各地で南海トラフが恐れられています。愛西市でも同じです。そういった地震が起きたときにまずしなければならないことは「避難」でした。東日本大震災では、とにかく人が逃げた場所では死者がほぼなく、「大丈夫だよ」といった考えで避難しなかった人が命を失ったことが多かったそうです。私達は命を無駄にしないためにも後悔しないためにも、まず生きるための避難が必要であると学びました。

現地の人々の思いを受け、二度と同じ死がないように、今後の地震に備えようと思います。

私は一瞬にして多くの物を奪った津波の恐ろしさや命の尊さを学びました。気仙沼向洋高校では、生徒が本当に通っていたとは思えないくらいの光景が広がっていました。どんなに大きくて重たい物でも津波によって流されたり、壊されたりするのだと知りました。被災した園児の母親の「生きたくても生きられなかった。」という言葉は私に今生きていることは幸せなことだと気づかせてくれました。自分の命は自分で守ろうとより一層思いました。自然災害が起こってしまったときに少しでも多くの命を救うために家族でハザードマップを確認したり、持ち出し袋を準備したりしていつでも避難の準備ができるようにしたいです。また、被災地への復興に向けてできることを見つけ、積極的に取り組んでいきたいです。

震災学習では、東日本大震災により、大きな被害を受けた東北地方を訪れ、震災の恐ろしさ、防災の大切さを実感できる機会となった。東日本大震災で被害を受けた宮城県の気仙沼市にある旧向洋高校では、津波で流されてきた自動車や、一部が欠けた校舎など、胸が締め付けられるような震災の惨状が当時のまま残されていた。また、震災時に乗る必要のないバスに乗り、不幸にも亡くなってしまった愛梨ちゃんの話は、とても悲惨なものであり、震災により、身近な人の命が失われることの悲しさについて考える機会となった。東日本大震災は、多くの人の心に深い爪痕を残した。しかし、そのようなことがあっても、震災による被害を少しでも減らすために、震災の恐ろしさや、防災の大切さを一生懸命伝えている人がいることを知り、自分達も日頃から防災の意識を高くもち、それを後世に伝えていかなければならないということ、今回の震災学習を通して学んだ。これらを生かし、今後は地域の防災についても考えていこうと思う。

私は体験学習事業で東日本大震災の被害の大きさと防災の大切さ、命の大切さについて学び、考えることができました。東北では、実際に被災した学校や船内などで語り部さんのお話を聞きました。語り部の方々からは津波の被害の大きさや東日本大震災の教訓、これからの災害に備える方法について教えていただきました。

ワークショップでは、「避難しない人にどう声をかけたらいいか」など、普段考えたこともないことについて考えて、震災についてはより深く考えるきっかけになりました。他にも東日本大震災遺構・伝承館や3・11みらいサポートでは津波や火事の恐ろしさや命の尊さ、避難の大切さを学び、これからも忘れずに伝承していきたいと思いました。

私は2日間の震災学習を通して、災害のときだけでなくいつも大切に思う気持ちを忘れずに毎日過ごしていきたいと思いました。そして、災害の備えについて見直して、しっかり対策していきたいと思いました。

語り部さんの話から、どれだけ自分が幸せ者なのか、なんとなく過ごしてきた毎日がいつなくなってしまってもおかしくないということを凄く感じ、周りの人と過ごす日々をもっと大切にしようと思うようになりました。

実際に遭われた経験を口にするということは、きっと私には想像できない程の覚悟が必要だと思います。その中で、語り部さんは、私達に当時の状況と共に二度と同じ思いをしてほしくないという気持ちを語って下さり、他人を思う皆さんの優しさにも心を打たれました。最初は、正直東北への旅か...と気が進まない部分もあったけど、実際行って話を聞かせていただいたり、見たりしたことで、自分が知っている情報をはるかに超える災害の怖さや、被災地の方の思いを知り本当に行ってきたと思うことが出来ました。貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、一日一日を大切に、また災害について家族ともう一度話したいと思います。本当にありがとうございました。

僕が体験学習で学んだことは、自然の恐ろしさと人の復興力です。東日本大震災で多くの人命が失われた、ということは僕ももちろん知っているし、津波の写真も教科書で見ることがあります。でも、自分の目で見ることによって、写真とかでは実感が湧かず、映画の中の世界のようにしか見られなかったものが、一瞬で心の底から本当に怖いものだと思えました。だから、自分がもし被災したら？など考えるきっかけとなったと同時に人の復興力はすごいなとも思いました。伝承館などの写真のほとんどが、瓦礫に埋もれた場所が一面に広がっているけれど、現在同じ場所では瓦礫もなくなり、建物は少ないところもあったけど、道路は舗装されていたり、それにこれからの自分の生活を考えるきっかけになったりと、多くのことを学ぶ機会になりました。

